



「東京六戸会」たより
～秋の親睦会に参加して～

112



猿島入口



イージス艦

東京六戸会、秋の親睦会「横須賀軍港めぐりと猿島クルージング」が去る10月30日に行われました。集合地が横須賀という事で幾人の方が足を運んでくれるか心配でしたが、午前10時、24名の方が京急横須賀中央駅にお集まりいただきました。

ハロウィンを楽しんでいる人や基地の

街らしい看板を見ながら、三笠公園に着きました。日本海戦の旗艦「三笠」の威容をバックに東郷元帥の銅像の前で記念写真、その後乗船し、10分程で猿島到着です。下船後、一同に会し簡単な自己紹介が終わった頃には、お昼に近く会からの心づくしのお弁当をいただきました。

猿島見学もそこそこに、会のチャーター船で、米軍基地を左に見ながらほぼ一周すると横須賀本港の全容がわかります。テレビなどでしか見たことがない、イージス艦や、潜水艦等、米軍の軍艦が迫力ある姿で繋留されておりました。

船は訓練用の機雷を左に見て堀割水路を長浦湾へと進み、そこには日本の船が多く見られました。世界各地へ支援物資を運ぶ船、給油船、機雷を除去する掃海艇（木造船）、海賊対策や、又、今回の東北震災に出動し



横須賀本港を望む



掃海艇（木造船）

た船等、他にも、いろいろな任務を持った船が停泊しておりました。

船は長浦湾を1周して北へ、左は伊藤博文が明治憲法の草

案を練った夏島で、日産、追浜工場『しんかい』の海洋科学技術センター、さらに、住友造船所があり、巨大門型クレーン（百米に及ぶ）がドックを跨いでおりました。また、喫水線を高々と上げスクリューや舵を晒した超大型タンカーが浮かんでおりました。

更に船は、八景島を右に海の公園の入江でUターンして、再び、横須賀本港に入り、汐入り浅橋へ到着です。

この日は北風が吹き、波もやや高かったのですが、猿島の原田さんと係の皆さんの心遣い、それに船長さんの説明や港内の案内には大変感動しました。幕末の動乱期に刑死した幕臣、小栗忠順が「これからの日本には絶対必要なもの」と言って造った我が国初の「ドック」も教えてもらいました。

末尾ながら役場から川村雄宇さんが会員の皆さんに『黒にんにく』のお土産を持って参加されました。雄宇さん遠い所までありがとうございました。今回は当会の佐藤（明）の企画でした。去年は台風で流れ、2年越し、温めてもらいました。また、佐藤さんの奥様にも大変お世話になりました。次回も皆さんのご意見もいただいで楽しい「集い」にと思っております。家族、友人お誘い合わせのうえ、ぜひご参加ください。ありがとうございました。

【著者：吉田竹男 六戸中30年度卒】



東郷元帥銅像前にて
記念撮影